

もある。多機関連携によるケース会議がどれだけ効果を出せるか？アセスメント後にサービス検討のはずが、進路ありきの就労選択支援利用にならないか？就労移行でできなかったことがこの選択支援でできるのか？何年も子どもに関わってきた支援学校の先生が、就労選択支援員の短期間のアセスメントを信用するのか？就労選択支援員の専門性とは？就労選択支援事業の対象者は膨大な人数になると見込まれるが、この事業が本当に必要な人を絞り込むような行政の裁量があってもいいのでは？」など多くの指摘がありました。最終的に「私たち事業者は制度に振り回されることなく、保護者、利用者の信頼を得ておく」ことが最も重要であると結ばれました。

全国障害者スポーツ大会が開催されました

理事長 長谷川 美智代

10月25日～27日の3日間、滋賀県において第24回全国障害者スポーツ大会「わたSHIGA輝く障スポ」が開催されました。



【開会式／大阪市選手団】

滋賀県では、1981年に開催された全国身体障害者スポーツ大会以来、44年ぶり2回目の開催となります。25日には、彦根市の平和堂HATOスタジアムで、秋篠宮ご夫妻ご出席のもと開会式が行われました。

式典前の「ウェルカムフェスタ」や「オープニングプログラム」では、滋賀県内の団体の皆さんによる多彩なパフォーマンスが繰り広げられ、その後、沖縄県を先頭に都道府県と政令都市の67選手団が、会場の大きな歓迎の拍手を受けながら入場しました。

炬火入場、点灯後の「おもてなし演技」では、総勢1,000名超の出演者がパフォーマンスを披露し、選手たちに熱いエールを届けてくれ、エンディングのトークショーでは、滋賀県出身のお笑いコンビ「ダイ

アン」が登場すると観客席のたくさんの小学生から「ゴイゴイスー！」との掛け声がかかれ、会場も和やかな雰囲気に包まれました。



開催期間の3日間は、あいにくの空模様でしたが、選手たちは悪天候にも負けず、各競技に力いっぱい挑んでいました。雨のためアクシデントに見舞われた選手たちもいましたが、皆さん最後まで力を振り絞り、頑張っている姿はとても感動的でした。それぞれが熱い想いで戦った大阪市選手団の結果は以下の通りです。

○個人競技

金メダル28個・銀メダル30個・銅メダル19個

○団体競技

◆バレーボール（聴覚・女子）優勝（金メダル）

◆バレーボール（聴覚・男子）準優勝（銀メダル）

◆バスケットボール（知的・男子）4位

3日間の熱戦を終えた27日には閉会式が行われ、大会旗が滋賀県から、来年開催される青森県「青の煌めきあおもり障スポ」に引き継がれました。そして、ファイナルステージでは、わたSHIGA輝く国スポ・障スポPR大使で歌手の西川貴教さんのコンサートが行われ、選手や観客が一体となって盛り上がり、大会は幕を閉じました。

今回、式典や陸上競技が開催された平和堂HATOスタジアムは、メインスタンドから国宝「彦根城」や日本名山の「伊吹山」が見える最高のロケーションで、日の入り後にはライトアップされた彦根城も見ることができ、選手の皆さんもその美しい光景に疲れも癒されたことと思います。

選手の中には、11月に東京で開催されるデフリンピックに日本代表として出場される方もおられますので、活躍を楽しみにしています。そして、選手の皆さんが、今年の滋賀障スポでの経験を活かし、来年の「青の煌めきあおもり障スポ」に向けて、更に飛躍されますことを願っています。